

経営比較分析表（令和2年度決算）

佐賀県 唐津市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	46.43	7.56	88.74	3,300

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
119,869	487.60	245.83
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
9,027	3.65	2,473.15

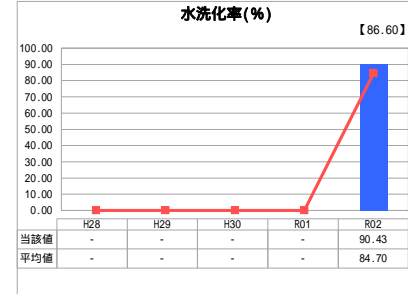
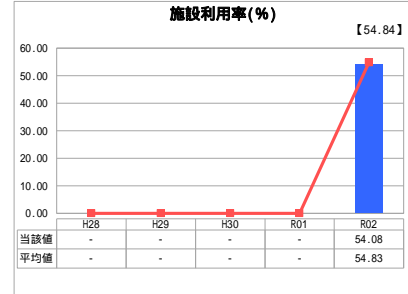
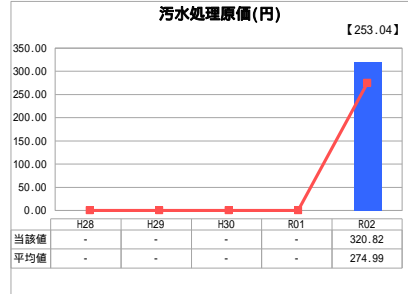
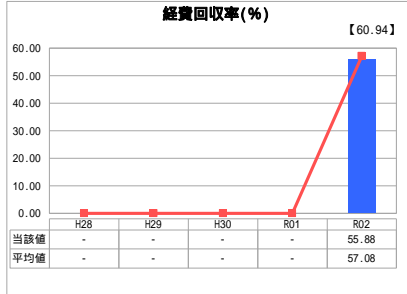
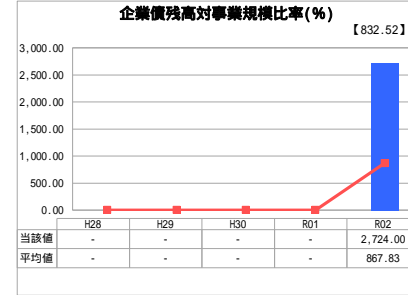
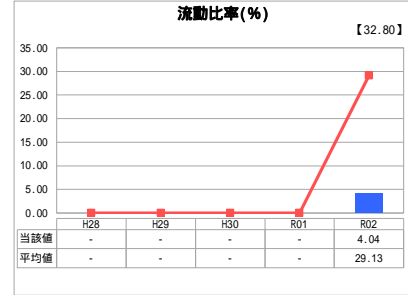
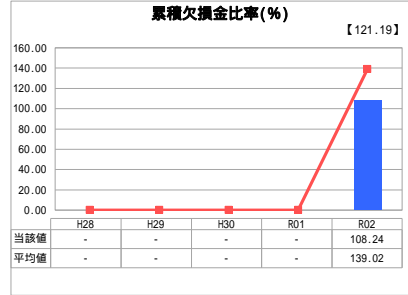
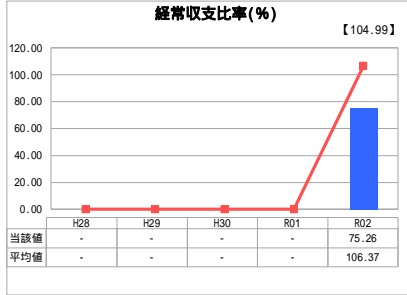
グラフ凡例

■ 当該団体値(当該値)

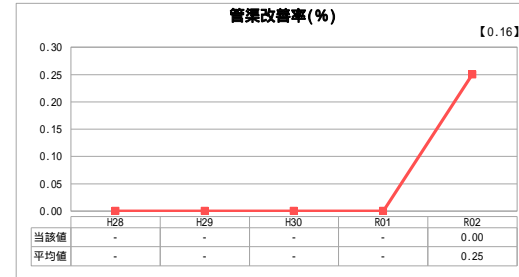
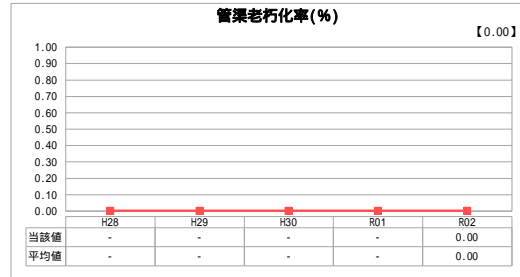
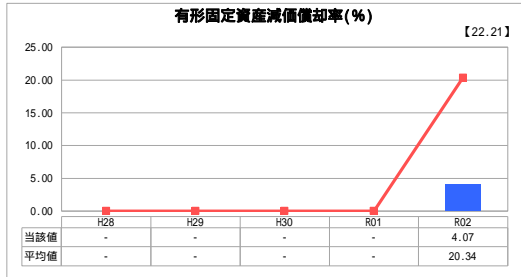
● 類似団体平均値(平均値)

【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、100%を下回っており単年度収支が赤字となっている。累積欠損金比率は、類似団体平均値より良い状況となっているが、収支が赤字のため改善に取り組まなければ悪化する一方である。流動比率は平均値を大きく下回っているが、これは企業債残高対事業規模比率が非常に高いこと、経費回収率が50%台と低いことから、資本費平準化債の借入れにより企業債現在高の減少が緩やかで単年度の企業債償還額が高く、事業規模に対する下水道使用料等の収入が足りないことが要因である。収入不足の理由として地域間格差を生じさせないように集落排水使用料の設定を公共下水道と同額としていることが考えられる。

汚水処理原価は、山間地域等の地理的条件により、集落排水排水施設を14施設保有しなければならず、費用が高んでいるためである。施設利用率及び水洗化率は平均値と同程度となっている。施設利用率は人口減が進んでおり、使用水量の減少により50%台と低い数値となっている。水洗化率は90%を超えているが、引き続き接続促進のため取り組む。

2. 老朽化の状況について

農業集落排水は、平成7年度に供用を開始し、約26年が経過している状況である。管渠については、法定耐用年数(50年)を経過している管渠は存在しないため、更新等は進んでいない。

今後は、「唐津市農業集落排水施設最適整備構想」に基づき、施設の老朽化対策を計画的に進めることとしている。

全体総括

下水道事業の運営にあたり、一般会計からの繰入金により賄っている状況である。

経営の健全性等を確保するには、下水道使用料の見直しによる経費回収率の向上が必要不可欠である。今後も経費回収率の向上と使用者の適正な負担を踏まえて、概ね5年ごとに改定を検討する。併せて維持管理費の削減のため施設のダウンサイジング等を検討し、適切な規模の施設に更新することが必要だと考えている。

「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。